

オオサキ ワンダーム ミュージアム 人と大自然の青空博物館

vol.23

次期世界農業遺産アクションプランを策定しています

世界農業遺産推進課自然共生推進担当 ☎23-2281

大崎圏1市4町に広がる「大崎耕土」が平成29年に世界農業遺産に認定されてから、来年度で5周年を迎えます。

認定と同時にスタートし、令和3年度を終期とした第1期世界農業遺産アクションプラン期間中は、地域資源の見える化や、ジラスツーリズムの造成、認証制度の構築、副読本の制作など、世界農業遺産の活用に向けた基礎作りを実施しました。

現在、令和4年度から8年度までの5年間のアクションプランについて、行政や関係団体、地域の実践者などから構成される各種会議において、推進の方向性を議論しています。これまでの取り組みをより発展させた、農泊を軸としたツーリズムや、屋敷林「居久根」の保全活用、認証制度の拡充、次世代人材の育成などのほか、SDGsとの関連や気候変動への対応など、これからの時代に対応した取り組みべき方向性を示してまいります。

今後も、農業遺産資源を単に保全するだけでなく、これまで整備した各種コンテンツなどを積極的に活用し、保全機運の醸成につなげる「守るために活かす」をコンセプトにし、地域全体の活性化を図ります。



道の駅おおさきでの
認証品のプロモーション
のモニターリング講習
◀学生への水田生きも

大崎耕土ウェブサイト
OSAKI KOUDO Website
大崎地域世界農業遺産推進協議会Facebook



第20回 みやぎふるさとCM大賞 khb アイデア賞作品を見てください

1月3日に東日本放送で放映された「第20回みやぎふるさとCM大賞」において、大崎市が作成したコマーシャル「トマト(君と)いつまでも」が「アイデア賞」を受賞しました。

みやぎふるさとCM大賞では、宮城県内の自治体が自身のまちの魅力・情報・自慢などをテーマに作成した30秒のコマーシャルが放送され、khb大賞を含め11の賞が決定しました。

アイデア賞を受賞したコマーシャルは、東日本放送で、年間20回放映されます。You Tubeで、ぜひコマーシャルを見てください。

▶ You Tube
QRコード



秘書広報課広報広聴担当 ☎23-5023

今月の表紙

3月3日は桃の節句、うれしいひな祭りですね。皆さんは「つるし雛」を見たことがありますか。

つるし雛は、端切れで作った人形などを、竹ひごの輪から赤い糸に下げてつるした飾りです。

「きっこまぎ教室」では、3月3日(休)まで「大崎市内5駅 つるし雛巡りの旅」と題し、食の蔵 醸室、JR古川駅、道の駅おおさき、三本木道の駅やまなみ、あ・ら・伊達な道の駅で、つるし雛を展示しています。

食の蔵 醸室の寺子屋ホールは、約9千点のつるし雛とミズキから下げられた、帯揚げで作成した毬飾りで華やかに彩られています。



一つ一つ表情の異なるかわいらしいつるし雛が、桃の節句とともに春を感じさせます。

◀ 幸せを呼ぶきっこちゃん

パワ崎さんの食育コラム

その11

地産地消って何だろう！



世界農業遺産推進課 ☎23-2281

みんなは、地産地消って聞いたことがあるかな？
地産地消とは、地域で生産したものを、その地域で消費することだよ！
地産地消の良いところを教えるね。
①旬なものを新鮮なうちに食べられる
②いつ・どこで・どんな人が作ったものか分かるので、安心して買うことができる
③食べ物を運ぶ距離が短いので燃料を多く使う必要がなく、地球に優しい
④自分たちが暮らす地域を知るきっかけになる。

食事のときや、食材を買いに行くときは、その食材がどこで採れたものかにも注目してみると、地元で採れる食材にはどんなものがあるのか、発見できるよ！
家庭では全ての食材を地元産にするのは難しいから、外国産のものより国産のもの、近い県のものを選ぶなど、少しずつ無理なく地産地消を食生活の中に取り入れてみよう！

市長コラム 天地人

城下町再生！

東日本大震災から11年目の春を迎えます。

復興まちづくりの象徴である「中心市街地復興まちづくり」が総仕上げの段階を迎えました。
古川七日町西地区第一種市街地再開発事業が竣工いたします。

分譲マンションも順調に販売され、入居が始まります。中央公民館機能を兼ね備えた地域交流センターも間もなく開所いたします。

本丸である市役所本庁舎も今年の11月には竣工、令和5年5月の供用開始を予定しております。

周辺道路や無電柱化も整備されます。

最近、市役所を訪れる方々からも「都会的だね！」「素敵なおうちに生まれ変わったね！」「ここで暮らしてみたいね！」「と、称賛の声が上がっております。

ヨーロッパのまちづくりは、まちの中心に教会や広場があり、その周辺に商店

街や住宅が形成されております。

日本のまちづくりは、かつては、お城を中心に町割りが行われ、城下町を形成しておりました。

古川七日町の歴史は、伊達政宗に古川城を任せられた鈴木和泉守が、戦乱で荒廃した領民に安住と安定を与えるために、御日市を開きました。現在まで古川八百屋市として受け継がれておりますし、七日町の地名の由来でもあります。

コロナを体験した日本は、田園回帰が加速しております。

大崎市が「天の時」「地の利」を活かす時です。

大事業完成を契機に、時代を伝え未来を拓くまちづくりへ、挑みを起動してまいります。

大崎市長 伊藤康志



Main Contents 目次

- 04 新型コロナウイルスワクチン関連情報
- 06 創業支援～あなたの夢、応援します～
- 09 CITY TOPICS
- 10 Discover Osaki
- 11 OSAKI Culture
- 12 オオサキプレイガイド
- くらしの情報
- 14 大崎地域交流センターに関するお知らせほか
- 24 子育て支援情報
- 25 育児相談・乳幼児健診
- 26 相談コーナー
- 27 休日救急当番医 ほか
- 古川学園高等学校女子バレーボール部第74回全日本バレーボール高等学校選手権大会準優勝報告会